

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
70	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Risk of hepatocellular carcinoma and habits of alcohol drinking, betel quid chewing and cigarette smoking: a cohort of 2416 HBsAg-seropositive and 9421 HBsAg-seronegative male residents in Taiwan 肝細胞癌発症危険度と飲酒、噛みビンロウ、喫煙の検討：2416 HBsAg 陽性、9412HBsAg 陰性の台湾人男性コホート研究	
<b>執筆者</b> Wang LY, You SL, Lu SN, Ho HC, et al.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Cancer Causes and Control 2003;.14: 241	
<b>キーワード</b> 肝細胞癌、アルコール、噛みビンロウ、喫煙、HBsAg、9412HBsAg、男性、台湾、コホート研究	
<b>要 旨</b>  (目的) B型肝炎ウイルスは肝細胞癌の主要原因である。B型肝炎ウイルスの慢性感染患者および非感染者における飲酒、喫煙と肝細胞癌発症危険度の関係の評価することを目的とした。  (方法) 台湾人男性11837人を対象としてコホート研究をおこなった。血清のHBs抗原、HCV抗体は酵素免疫分析にて同定した。飲酒および噛みビンロウの使用、喫煙習慣は系統的な質問票を用いて標準化された聞き取り調査により明らかにした。合計91885人年を観察し、癌登録のデータにより115例に肝細胞癌の新規発症を認めた。肝細胞癌発症の相対危険度を飲酒や喫煙習慣、B型肝炎ウイルス感染に関してコックスの比例ハザードモデルを用いて調整して求めた。  (結果) HBs抗原もしくはHCV抗体陽性、飲酒者、噛みビンロウ使用者、喫煙者群にて肝細胞癌の発症は著明に増加した。飲酒・噛みビンロウ・喫煙のうち曝露されている危険因子の数と肝細胞癌発症との間に明らかな量反応関係が認められた。HBs抗原陽性かつ危険因子あり群において肝細胞癌発症危険度が最も高く(相対危険度17.9-26.9)、HBs抗原陽性かつ危険因子なし群(相対危険度13.1-19.2)、HBs抗原陰性かつ危険因子あり群(相対危険度1.6-2.7)、HBs抗原陰性かつ危険因子なし群(対照群：相対危険度1)の順であった。  (結論) 飲酒、噛みビンロウ使用、喫煙習慣と肝細胞癌発症危険度の増加に関連を認めた。B型肝炎ウイルス感染が多い地域では肝細胞癌の発症予防のため禁酒、喫煙が重要である。	